

# 神宮外苑の再開発 有識者に聞く

神宮外苑の再開発に関し、小池知事は10日、者議会の決定に伴うもので、民間事業者が神宮球場に隣接の高層ビル2棟を建設する計画。歴史的な1千本の樹木が伐採される見通しで、反対意見も株人はどう考えるのか。神宮外苑の歴史的価値と

——神宮外苑の再開発をどう考えますか。

神宮外苑に適用されている「公園まちづくり制度」は、公園が整備できない場所に民間の力を借りて早急に整備する趣旨だ。しかし実際は現存する公園をつぶす形になっている。神宮球場も秩父宮ラグビー場も都市公園の中にあり、皆が集まっているが、それをわざわざ壊して、10年もかけて作り直す計画になっている。また、広域避難拠点にもなっている公園を削って、超高層ビルを建てるという

その機能も損なわれる。

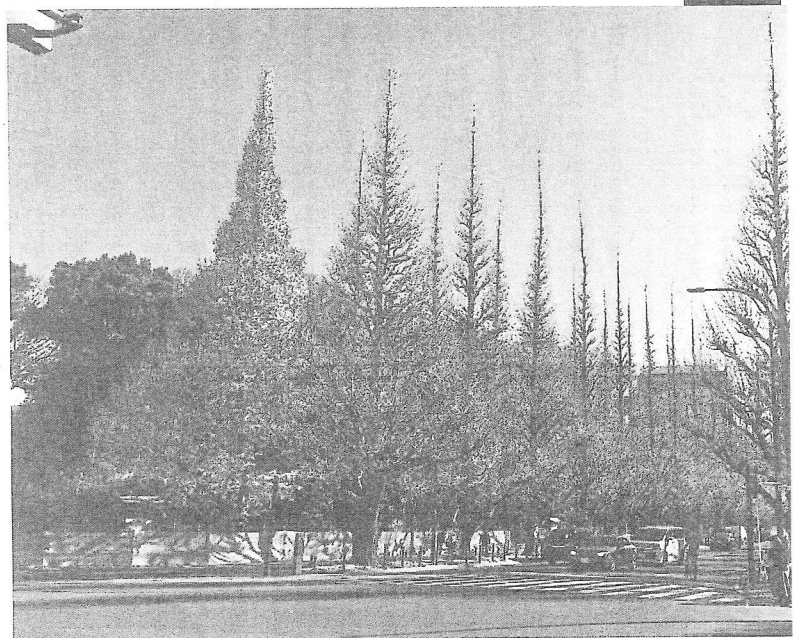
大事なのは、神宮外苑が近代を代表する重要な庭園であるということだ。新宿御苑のプラタナス並木と芝生広場が最初の例で、次が明治神宮内苑の宝物殿の前。うっそうとした森を背景に芝生が広がっている。そして三つ目が神宮外苑だ。この中で、新宿御苑は環境省が、明治神宮内苑は明治神宮がそれぞれ厚く維持管理している。

しかし外苑が大きな問題だ。外苑は、多くの人々が寄付や献木をして創ったもので、それを「未来永劫、美しく維持してください」と明治神宮に奉献したもの。したがって明治神宮は、この約束を守っていく義務がある。

現在は、少年野球場やプロ野球のアンテナショップなどが入っているが、今回の再開発で樹齢100年を超える樹木が大量に伐採され、会員制テニスクラブとなる。近代の文化的遺産としての価値を認識せず、また、先人たちの厚意・努力をほごにし、営利追求により、外苑の最も重要なエリアが破壊されることを危惧している。

——樹木の伐採について調査しました。

樹木そのものが文化だ。元々が100年〜200年もつ立派な庭



神宮外苑のイチヨウ並木。樹木の保全はどう

# 寄付・献木の経緯顧みて

## 知事がメッセージ発信を



### 中央大学研究開発機構教授 石川 幹子氏

いしかわ・みきこ＝1948年生まれ、東大院農学系研究科博士課程修了。専門はランドスケープ・デザイン。新宿御苑再生設計も担当。著書に『都市と緑地』（岩波書店）、『流域圏プランニングの時代—自然共生型流域圏・都市の再生』（技報堂出版・共著）など。

園として造られた。外苑はいろんな方の寄付、樺太から台湾まで、ほとんど全国から3千本の樹木が集まっている。例えば、「子どもが栗拾いするための寄付」「貧しい村の人々が小さなお金を持ち寄った寄付」として植えられた。このような経緯を顧みることなく、植え替えて本数を増やせばいい、というのは次元の違う話だと思う。

伐採の本数については現在、都に情報公開請求を行っているが、4月まで（結果が）延期されている状況だ。

——どのような対応が求められますか。

秩父宮ラグビー場と神宮球場が老朽化しているのは確かだが、現地で建て替えることはできないのか。そうすればテニスコートを移転させる必要もないし、樹木も生き残る。神宮外苑の再開発が悪いと言っているわけではない。建て替えることができないというのなら、かつて国民が皆で外苑を創ったのと同じことをやればよい。小池知事が「皆で考えよう」というメッセージを出しさえすれば、そうした機運が出てくるのではないかと。